

スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を

✧ 日本自立生活センター自立支援事業所 2022年5月26日発行第134号

重度障害者の社会とコミュニケーション

山崎 信一

僕は、日本で初めてオリンピックが開かれた年 1964 年 1 月 20 日に生まれました。日本に新幹線とか高速道路ができたときに生まれました。

この社会の中で差別を、受けているのは弱者であると思っています。例えば障害者も、その中でも重度言語障害者と違うかなと、感じる今日このごろです。

今まで 58 年間生きてきたけど言語障害のことは、深掘りをしてこなかった。一つのコミュニケーションが、とれないだけなのに、なぜ社会の人々は、僕らのことを、ひとくくりにして見るのだろうかと思っています。例えば外国に行って、コミュニケーションがとれますかということです。それは言語障害にとって日常生活はいつもいつも日常茶飯事です。

なぜ深掘りをしてこなかったかと考えてみると、コミュニケーションというのは、人間にとって当たり前のようなもので本能だからかもしれないと思っています。なので、コミュニケーションは身体より深いものがあるをつくづく感じています。

僕は、58 年間言語障害を、余儀なくされてきたけど重度言語障害は、一文字出すことで体のエネルギーを、一文字一文字出すことによってエネルギーを、どんなに排出しているかを、もうちょっと聞く側が、わかってくれたらいいと思っています。いや、重度の言語障害者はだれもそう思っているのと違うのかと感じる今日このごろです。

それだけ重度言語障害者の言葉はより深いと思っています。なので、聞く側の人でも真剣に重度の言語障害者の言葉を、時間がないとか、わからないとは言わずに言語障害者の話しを、聞いて欲しいと思っています。

その時間を、奪ってきたので、これからは、言語障害の人と会話をする時には心に余裕を余裕を、持って欲しいと思っています。



言語障害者は、心に余裕を、持って聞いて欲しいと思っています。相手に余裕が、なかったら、言語障害者の言葉はちゃんと聞けないと思っています。

だいたい日本人は余裕がないのでそれを、磨いて欲しいものだと感じるこのごろです。だいたい日本人は、せっかちな、心に、余裕がない生き物です。僕がよく思うのは日本人が、こんなにせっかちなのは、生まれた環境のせいでもあると思っています。

さて、言語障害のことに戻るけれどもなから僕らは、わからなくてありたまえと思っていますのであんまりあたまに来ないけど、強いて言えば言葉を、聞かない人の方があたまに来ます。言語障害者はコミュニケーションが怖い反面、伝えなダメになると思って、だから大事な体のエネルギーを、使ってコミュニケーションを、とっています。

言語障害者は、介助者と如何に共有が、できているかだと思っています。

今何気なく書いていますが、実はコミュニケーションはとても人間には、それは大切と感じています。

今まで重度言語障害者が、社会に出られなかったのもあるけど、言語障害者が世の中にいないみたいに社会全体が、なっていると思っています。

重度言語障害者が、地域で生きていくことは地域の人々たちが、変わるいい機会になると、思っています。

58年間生きて来たけれど、重度言語障害者を見たら、知的障害者となぜ世間のみなさんは、間違えるのか、そう思っています。僕は言語障害者が、もっともっと外に出ようと、思っています。

重度言語障害者が、外に出ると社会全体が自然と空気が、ゆっくりゆっくりの流れになると、感じています。社会全体を変えるなら今が、いいチャンスかも知れない。重度言語障害者は、社会に出ていろいろあると、思いますが外に出ようよと、そう思っています。

職員自己紹介

- ① なまえ
- ② JCIL との関わりはいつから？
- ③ きっかけは？
- ④ どんな仕事をしていますか？
- ⑤ 大切にしていること・これからしたいこと

- ① 古橋 太樹 (ふるはし たいき)
- ② 2019年4月からJCILで働かせてもらっています。
- ③ 学生時代の友人で当時からJCILに在籍していたM君からの誘いでした。以前からJCILの話は少し聞いており、前職を辞めると決め、次の仕事を探している時にM君の話を思い出して相談してみると、JCILの小泉さんに僕の事を話してくれて、そこからJCILとの関わりが生まれました。
- ④ 今は障害者の自立生活を支援する仕事が多く、自宅での生活から外出まで幅広く関わらせてもらっています。
- ⑤ 障害があるからできない、やらせないではなく何か出来ることはないか、工夫することはできないかなど、本人の意思を可能な限り尊重した介護ができるよう心がけて今後も働きたいと思っています。よろしくお願ひします。



滋賀県旧優生保護法情報公開請求訴訟

第9回公判の傍聴案内 です。

一人でも多くの方のご協力をお願いします。 香田

今までの裁判の経過

旧優生保護法による強制不妊手術が行われた経緯や詳細が書かれている資料を京都新聞社が滋賀県に対して開示請求しましたが、滋賀県からの開示資料は殆ど黒塗りで皆無に等しいものでした。裁判の中で滋賀県側は、個人を特定（医師や病院も含めて）出来るような情報は公開出来ないと主張しています。強制不妊手術被害者賠償請求裁判は、2月に大阪高裁、3月に東京高裁で画期的な判決が出ました。滋賀の裁判も関連があり、いい方向に向いてくれたらとおもいます。

今回も引き続き、原告（京都新聞社）側の反論になります。

日時：2022年6月21日(火)14時30分開廷

場所：大津地方裁判所本館101号法廷

(本館ロビーにて1時間前に傍聴整理券が配布されます。多数の場合は抽選となります。)



大津地裁での傍聴が終わってから、隣接する逢坂市民活動センター大会議室に於いて、当日の陳述・弁護団の主張・滋賀県の主張等、訴訟内容の報告をいたします。

新型コロナウイルス感染予防のため、**定員があります**ので参加予定の方は恐れ入りますが下記連絡先までご連絡ください。

☆車いすでの傍聴希望の方は6月10日までにご連絡ください。

☆情報保障（手話通訳・文字通訳など）が必要な方は、6月14日までにご連絡ください。（尚、ご希望に添えないこともあります）

ご不明な点などございましたらお気軽にご相談ください。

報告会はオンライン配信を行いますので、参加希望の方は名前とメールアドレスを記入してメールで下記の申込先に申し込んでください。後ほど、報告会参加のURLを送らせていただきます。

[裁判傍聴当日の情報保障のご協力をお願い]

報告会の時にオンラインで行うので、サポートして頂けるボランティアを募集しています。詳細は申込先まで

※申込先※

村田恵子

携帯:090-8886-9377

Email: miyabi-kyotojapan@docomo.ne.jp

熱中症びっくり3大数字

発生場所	屋内 50%!! ←半分も!!
時間帯	夜間 16%!!
救急搬送	65歳以上 52%!!

暑い中、お疲れさまです!



こんな時になりやすい「熱中症」!!

気温が高い	湿度が高い	日差しが強い	激しい運動の後	体調不良
-------	-------	--------	---------	------

DRINK
COFFEE



植田カフェ

開店日のお知らせ

6/15(水)

14:00-17:00

事業所 1階

アイスコーヒー
ホットコーヒー
アイスカフェオレ
アイスチャイ
ノンカフェインもあります

楽器を持ってるのは、ぜひお気軽に演奏しに来て～

だらだらとダラダラしましょう



コーヒー好きな私がセレクトした、美味しいオーガニックコーヒーを提供いたします。午後の一服のお供に、ぜひ美味しいコーヒーを飲みに来てください。マイカップのご持参大歓迎です!



プロジェクト代表
植田健夫
(コーヒー好きの筋ジス当事者)

介助者募集中!

お知り合いの方に
お声かけください～

<https://www.youtube.com/watch?v=pTUZZokM-sU>

介助者募集 PV を YouTube で公開しています。「介助という仕事」を具体的にイメージしてもらえる動画になっています。



日本自立生活センター(JCIL)の YouTube チャンネル



8:17 / 9:28

